

# 中小企業景況調査報告書

第153回

2019年 1～3月期 **実 績**

2019年 4～6月期 **見 通 し**

2019年4月

## ■ CONTENTS

### I. 概況

今期の業況・産業別の動向	1～2
1. 業況	3～4
2. 売上高	5
3. 採算(経常利益)	6
4. 資金繰り	7
5. 経営上の問題点	8
6. 従業員の動向	8
7. 新規設備投資	9

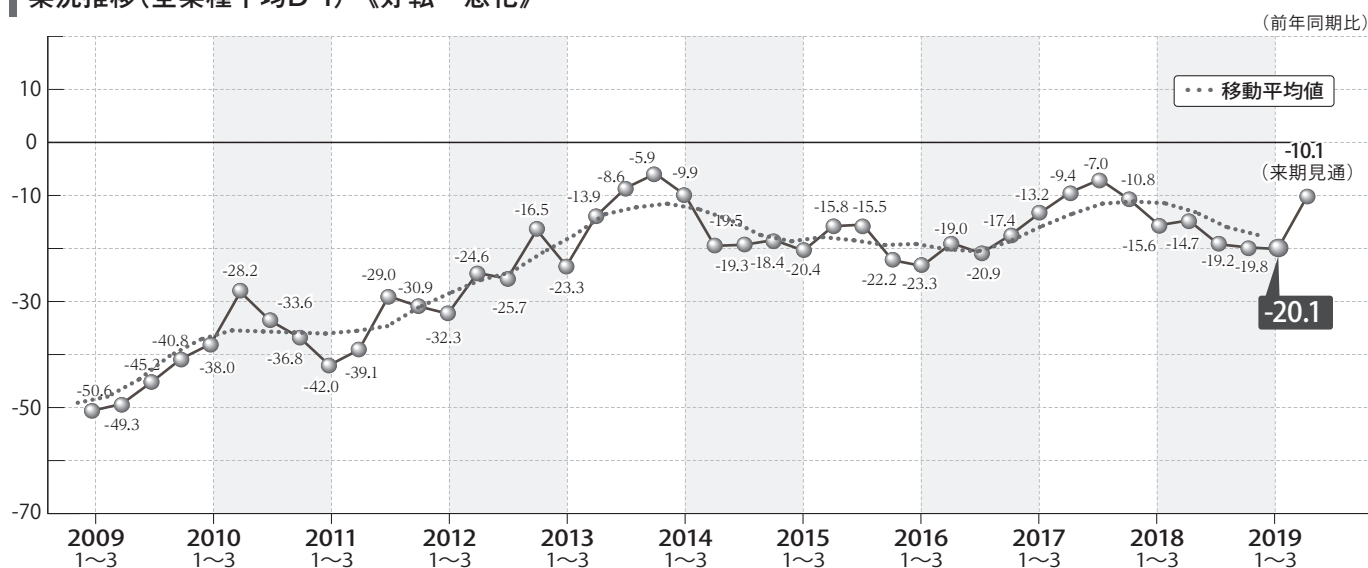
### II. 調査要領 ..... 10

1. 調査時点及び調査対象期間
2. 調査対象
3. 調査地域及び調査方法
4. 業種別・規模別回答状況

# I. 概況

## 業況D・Iは横ばいに推移、来期は回復の動き

### 業況推移(全業種平均D・I)《好転—悪化》



### 今期の業況

今期(1~3月期)の中小企業景況調査における全業種平均D・I値は、▲20.1と前回調査からほぼ横ばいに推移した。また、来期の業況見通しは、▲10.1とマイナス幅を縮小する見通しとなっている。

業種別では、前年同期比では、製造(前回▲23.6→今回▲16.4)、建設(前回▲7.4→今回▲20.3)、卸売(前回▲21.6→今回▲25.8)、小売(前回▲25.3→今回▲27.8)、サービス(前回▲21.3→今回▲10.4)と、**建設業・卸売業・小売業の3業種でマイナス幅が拡大した。**

今期の経営上の問題点として、「需要の停滞」、「従業員の確保難」が大きな要因となっている。また、製造業では「原材料価格の上昇」、建設業では「材料単価の上昇」、卸売業では「仕入単価の上昇」、小売業では「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業では「人件費の増加」などの問題点が浮上した。

また、新たに設備投資を実施した企業は平均で13.8%[前回調査時(2018年10~12月期17.4%)]、業種別では製造[前回22.2%→7.4%]、建設[前回20.9%→22.9%]、卸売[前回11.9%→5.1%]、小売[前回13.2%→11.3%]、サービス[前回18.8%→22.2%]と、**製造業・卸売業・小売業では実施したと回答する企業が減少した。**

### 産業別の動向

#### 製造業 [業況D・I値(前年同期比)▲16.4(来期見通し▲11.8)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(2018年10~12月期)時点からの推移では、前回▲23.6→今回▲16.4と7.2ポイントマイナス幅を縮小した。来期は▲11.8とさらにマイナス幅を縮小する見通し。

#### 主なコメント

- ・業界全体として好調で、自社も流れに乗って結果を出せている。企業説明会等に参加し、中途採用者を数名確保したが、技術系の人材不足は解消されていない。(金属製品製造業)
- ・消費税増税の影響(まとめ買いや買い控え等)をどのように予測し、生産計画へ反映させていくかが課題。(計量器・測定器製造業)
- ・前年同期に比べ、今期は4月の選挙関係の受注があり、売上はやや増加している。(印刷業)
- ・従業員は大卒者・高卒者ともに増加の見込みだが、工場作業員は不足している。働き方改革による、残業時間の短縮が重荷となっている。(食料品製造業)

## 建設業 [業況D・I値(前年同期比)▲20.3(来期見通し0.0)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(2018年10~12月期)時点からの推移では、前回▲7.4→今回▲20.3と12.9ポイントマイナス幅を拡大した。来期は0.0とマイナス幅を縮小する見通し。

### 主なコメント

- ・毎年1人でも採用したいと考えているが、いわゆる5K、8Kというイメージから、募集人数を下回るどころか、0名が続いている。  
(一般電気工事業)
- ・GWの10連休により、休んだ分は直に業績に響くので厳しいスタートが予想される。(一般土木工事業)
- ・今期は雪が予想より少なく、除雪関係の仕事が減少した。また、前期同様、技術者・職人共に人手不足で、増員しないと業況の好転が見込めない状況である。(一般土木工事業)

## 卸売業 [業況D・I値(前年同期比)▲25.8(来期見通し▲16.1)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(2018年10~12月期)時点からの推移では、前回▲21.6→今回▲25.8と4.2ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲16.1とマイナス幅を縮小する見通し。

### 主なコメント

- ・輸送コストの上昇を、売上単価に転嫁できず利益につながっていない。また、雇用に関しても扶養範囲内での労働の希望が増え、生産性が上がらない。(野菜・果物卸売業)
- ・労働時間や休暇の改善と残業時間短縮に取り組んでいるが生産性が上がらず、収益悪化が懸念される。また、人員採用面では、賃金の改定を行っているため人件費アップとなり、経費が想定以上に膨らんでいる。(自動車部品卸売業)
- ・北海道新幹線(倶知安~札幌間)及び国道5号(余市~共和間)の工事に係る生コン、セメント、骨材の売上が増加した。  
(建築材料卸売業)

## 小売業 [業況D・I値(前年同期比)▲27.8(来期見通し▲17.1)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(2018年10~12月期)時点からの推移では、前回▲25.3→今回▲27.8と2.5ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲17.1とマイナス幅を縮小する見通し。

### 主なコメント

- ・商店街への客足が鈍く、少子高齢化やネットショッピングの普及により苦戦を強いられている。また、10月には消費税増税が控えており、前回と同様に増税前の9月の駆け込み需要はあると思うが、増税直後からは冷え込みが予想されるので、今から対策を考えなくてはならない。(衣料品販売業)
- ・仕入価格の高騰に伴う販売価格への転嫁を行うと、個人消費の減少が考えられ、なかなか販売価格の変更ができず、利益が圧迫されている。また、人材確保のために賃金を上げざるを得ず、余計に利益減少となっている。(食料品小売業)
- ・10月の消費税増税について、助成金など出ているが詳細が分からず、キャッシュレス化したところで、景気の腰折れになるのではないか。  
(自動車小売業)

## サービス業 [業況D・I値(前年同期比)▲10.4(来期見通し▲5.4)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(2018年10~12月期)時点からの推移では、前回▲21.3→今回▲10.4と10.9ポイントマイナス幅を縮小した。来期は▲5.4とマイナス幅をさらに縮小する見通し。

### 主なコメント

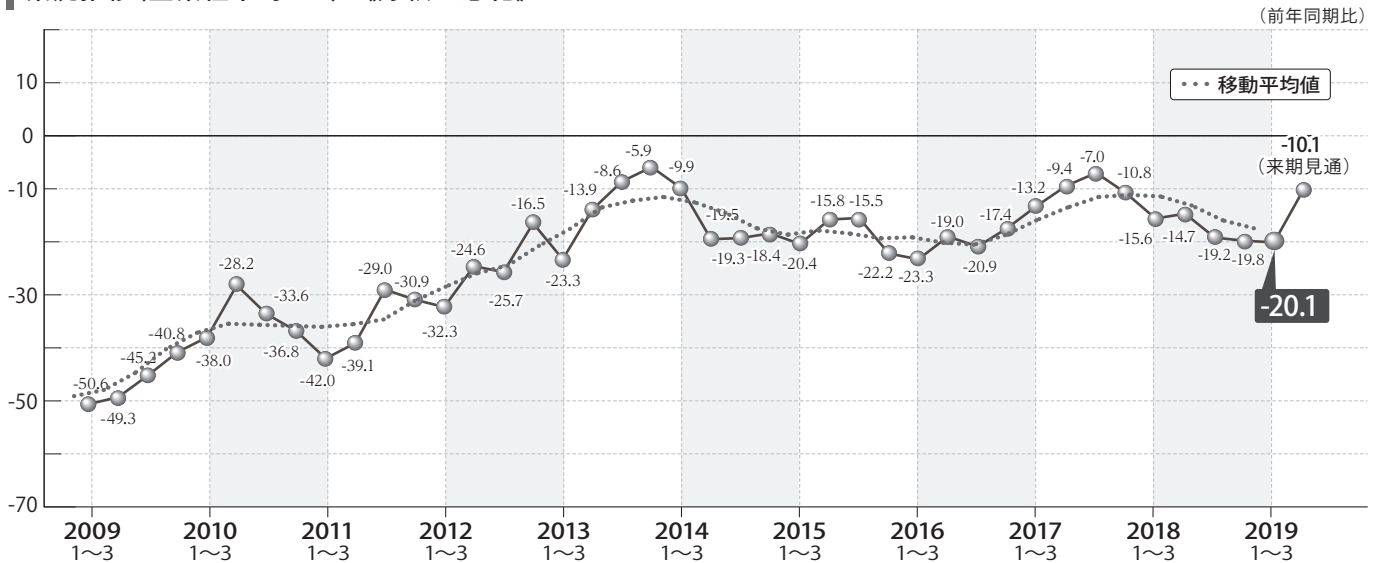
- ・人手不足が叫ばれる中、13カ国の人材を派遣スタッフとして雇用しており、取引先の需要の掘り起こしや新規開拓を含め、海外人材の活躍に大いに期待している。(人材派遣業)
- ・冬のインバウンドは客単価が高く、中国人・韓国人の来店が多く、今年は旧正月と雪まつりが重なり、期間中は20時を過ぎても来店があった。4月からは商品の値上げも検討している。(飲食業)
- ・1~2月は降雪が多かったため、利用客が増加したが、雪の少なかった3月を含め平均すると、売上は例年並みであった。キャッシュレスへの対応のため、スマートフォンによる電子マネー決済の設備等を実施した。(ハイヤー業)

# 1. 業況

## 1 今期の業況

前年同期比 (2018年1~3月期の水準と比較した今期の業況)

業況推移(全業種平均D・I) 《好転—悪化》



業種別D・I値

全業種 前回▲19.8→▲20.1

製造 前回▲23.6→▲16.4

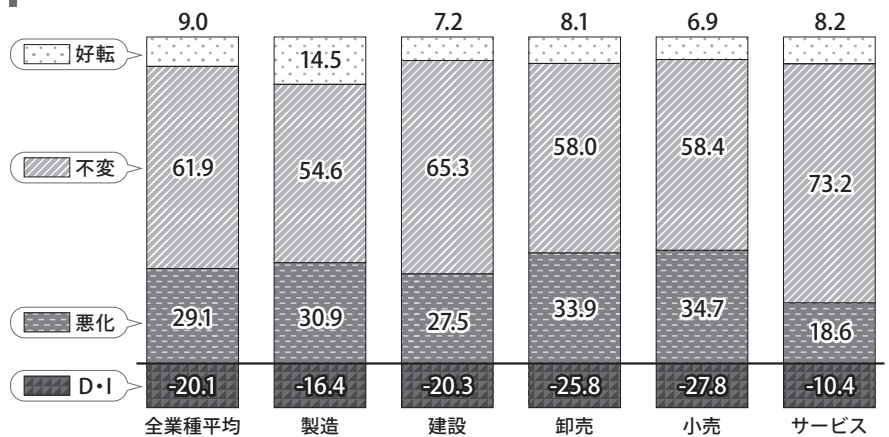
建設 前回▲7.4→▲20.3

卸売 前回▲21.6→▲25.8

小売 前回▲25.3→▲27.8

サービス 前回▲21.3→▲10.4

今期の業況(前年同期比)



前期比 (2018年10~12月期の水準と比較した今期の業況)

全業種平均でD・I値▲24.7 [前回調査時(2018年10~12月期▲11.6)より13.1ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種 前回▲11.6→▲24.7

製造 前回▲11.3→▲25.0

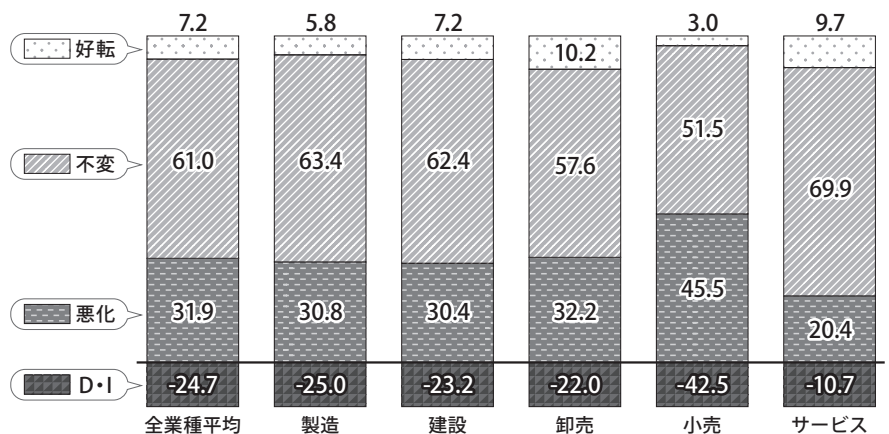
建設 前回 1.5→▲23.2

卸売 前回▲14.1→▲22.0

小売 前回▲12.0→▲42.5

サービス 前回▲22.2→▲10.7

今期の業況(前期比)



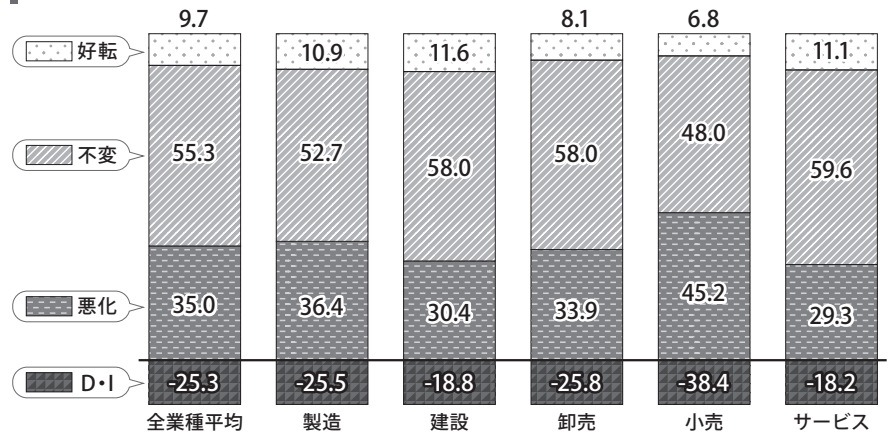
## 今期の水準

全業種平均でD・I値▲25.3〔前回調査時(2018年10~12月期▲21.0)より4.3ポイントマイナス幅を拡大〕

### 業種別D・I値

全業種	前回▲21.0→▲25.3
製造	前回▲21.4→▲25.5
建設	前回▲11.6→▲18.8
卸売	前回▲20.3→▲25.8
小売	前回▲25.3→▲38.4
サービス	前回▲26.3→▲18.2

### 今期の業況(今期の水準)



## 2 来期の業況

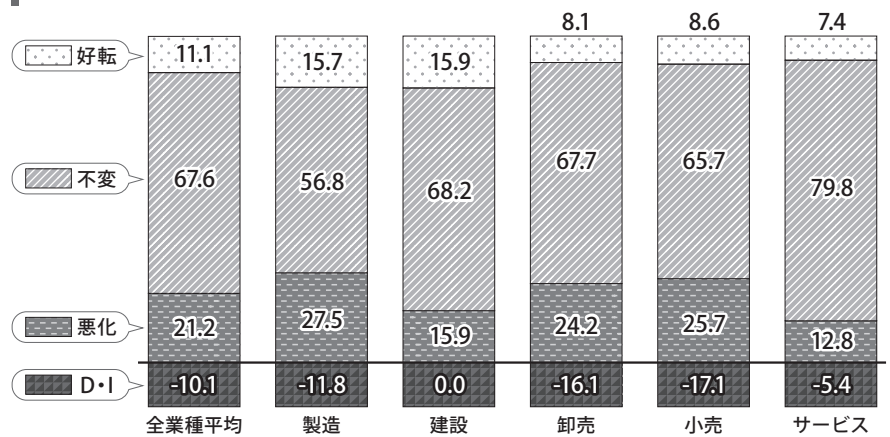
### 前年同期比 (2018年4~6月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲10.1〔今期の業況(前年同期比▲20.1)より10.0ポイントマイナス幅を縮小する見通し〕

### 業種別D・I値

全業種	今回▲20.1→▲10.1
製造	今回▲16.4→▲11.8
建設	今回▲20.3→ 0.0
卸売	今回▲25.8→▲16.1
小売	今回▲27.8→▲17.1
サービス	今回▲10.4→▲ 5.4

### 来期の業況見通し(前年同期比)



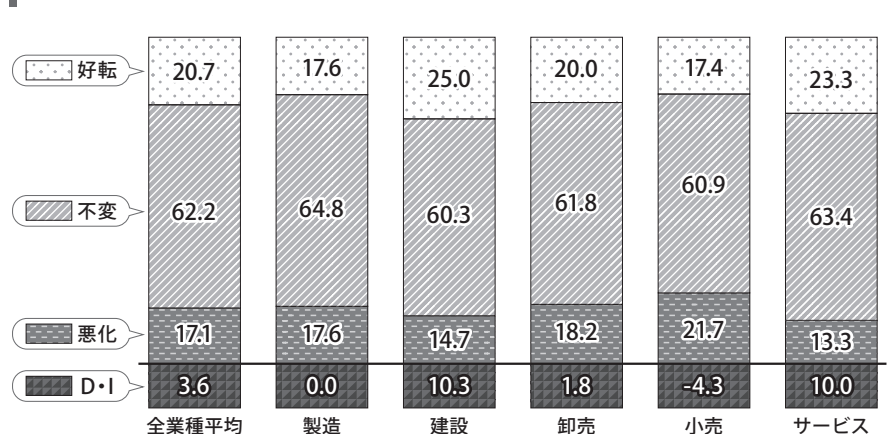
### 今期比 (2019年1~3月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値3.6〔今期の業況(今期水準▲25.3)より28.9ポイント改善する見通し〕

### 業種別D・I値

全業種	今回▲25.3→ 3.6
製造	今回▲25.5→ 0.0
建設	今回▲18.8→ 10.3
卸売	今回▲25.8→ 1.8
小売	今回▲38.4→▲ 4.3
サービス	今回▲18.2→ 10.0

### 来期の業況見通し(今期比)

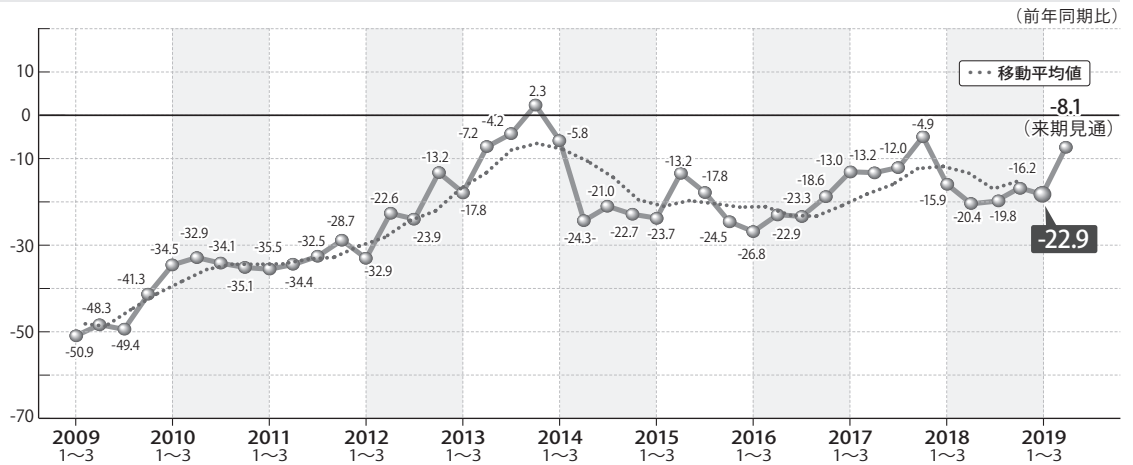


## 2. 売上高

### 1 今期の売上高

**前年同期比** (2018年1~3月期の水準と比較した今期の売上高)

売上高推移  
(全業種平均D・I)  
《増加—減少》

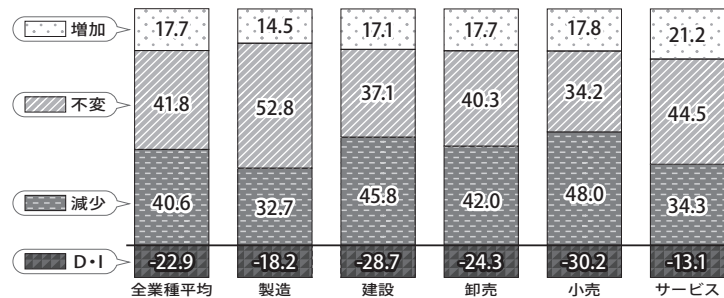


全業種平均でD・I値▲22.9[前回調査時(2018年10~12月期▲16.2)より6.7ポイントマイナス幅を拡大]

**業種別D・I値**

全業種	前回▲16.2→▲22.9
製造	前回▲17.9→▲18.2
建設	前回▲11.7→▲28.7
卸売	前回▲21.7→▲24.3
小売	前回▲16.5→▲30.2
サービス	前回▲13.1→▲13.1

**今期の売上高(前年同期比)**



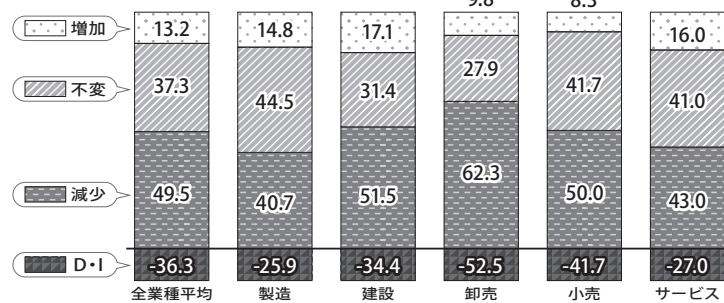
**前期比** (2018年10~12月期の水準と比較した今期の売上高)

全業種平均でD・I値▲36.3[前回調査時(2018年10~12月期0.7)より37.0ポイント悪化]

**業種別D・I値**

全業種	前回 0.7→▲36.3
製造	前回 7.4→▲25.9
建設	前回 5.9→▲34.4
卸売	前回▲1.6→▲52.5
小売	前回 4.1→▲41.7
サービス	前回▲12.4→▲27.0

**今期の売上高(前期比)**



### 2 来期の売上高

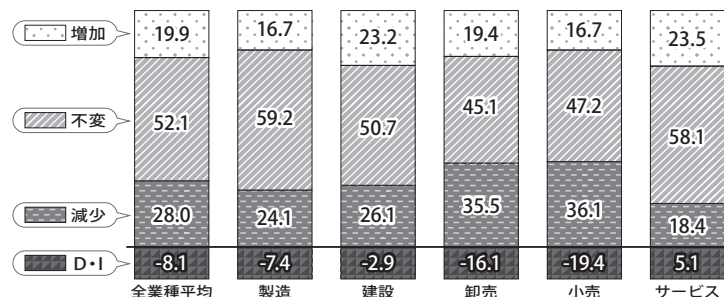
**前年同期比** (2018年4~6月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲8.1[今期の売上(前年同期比▲22.9)より14.8ポイントマイナス幅を縮小する見通し]

**業種別D・I値**

全業種	今回▲22.9→▲8.1
製造	今回▲18.2→▲7.4
建設	今回▲28.7→▲2.9
卸売	今回▲24.3→▲16.1
小売	今回▲30.2→▲19.4
サービス	今回▲13.1→ 5.1

**来期の売上高見通し(前年同期比)**

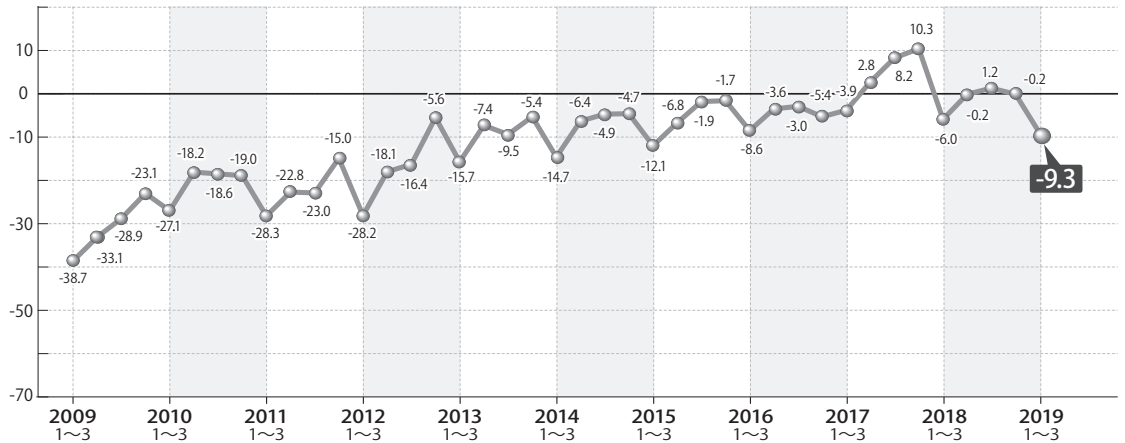


### 3. 採算(経常利益)

#### 1 今期の採算

##### 今期の水準

採算推移  
(全業種平均D・I)  
《黒字—赤字》

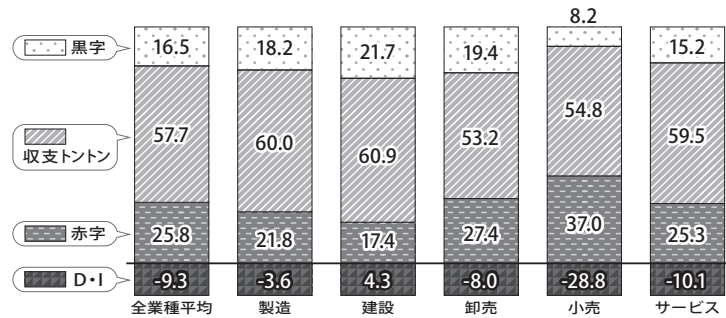


全業種平均でD・I値▲9.3[前回調査時(2018年10~12月期▲0.2)より9.1ポイントマイナス幅を拡大]

##### 業種別D・I値

全業種	前回▲0.2→▲9.3
製造	前回▲1.7→▲3.6
建設	前回 15.9→ 4.3
卸売	前回▲1.7→▲8.0
小売	前回▲8.4→▲28.8
サービス	前回▲5.0→▲10.1

##### 今期の採算(今期の水準)



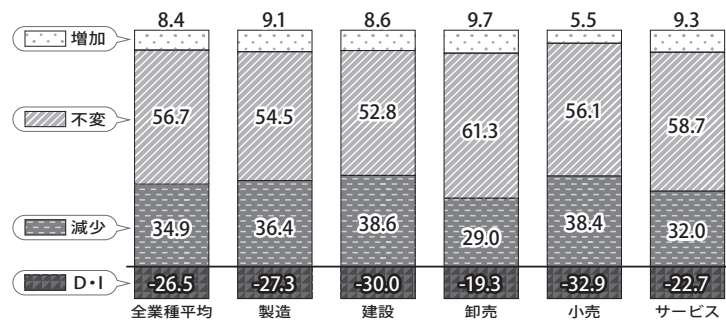
##### 前年同期比 (2018年1~3月期の水準と比較した今期の採算)

全業種平均でD・I値▲26.5[前回調査時(2018年10~12月期▲23.3)より3.2ポイントマイナス幅を拡大]

##### 業種別D・I値

全業種	前回▲23.3→▲26.5
製造	前回▲32.8→▲27.3
建設	前回▲17.4→▲30.0
卸売	前回▲18.3→▲19.3
小売	前回▲29.1→▲32.9
サービス	前回▲18.8→▲22.7

##### 今期の採算(前年同期比)



#### 2 来期の採算(経常利益)

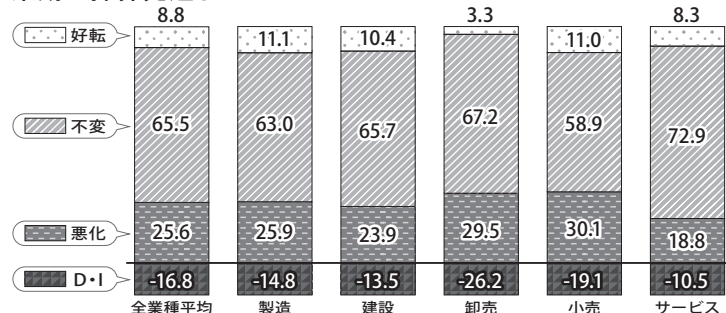
##### 来期

全業種平均でD・I値▲16.8[今期の採算(今期の水準▲9.3)より7.5ポイントマイナス幅を拡大する見通し]

##### 業種別D・I値

全業種	今回▲9.3→▲16.8
製造	今回▲3.6→▲14.8
建設	今回 4.3→▲13.5
卸売	今回▲8.0→▲26.2
小売	今回▲28.8→▲19.1
サービス	今回▲10.1→▲10.5

##### 来期の採算見通し

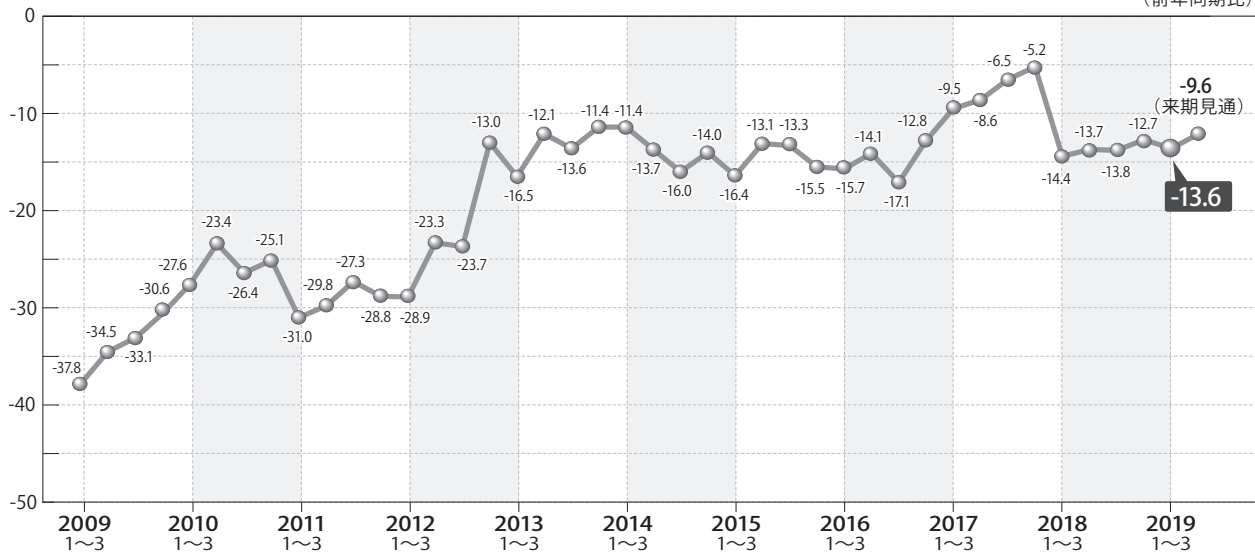


## 4. 資金繰り

### 1 今期の資金繰り

資金繰り推移(全業種平均D・I)《好転—悪化》

(前年同期比)



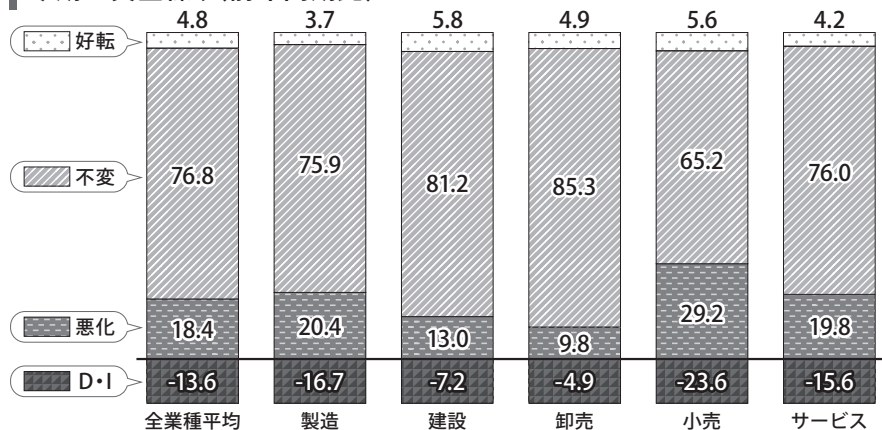
前年同期比 (2018年1~3月期の水準と比較した今期の資金繰り)

全業種平均でD・I値▲13.6[前回調査時(2018年10~12月期▲12.7)より0.9ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲12.7→▲13.6
製造	前回▲12.5→▲16.7
建設	前回▲ 3.0→▲ 7.2
卸売	前回▲13.5→▲ 4.9
小売	前回▲19.2→▲23.6
サービス	前回▲15.2→▲15.6

今期の資金繰り(前年同期比)



### 2 来期の資金繰り

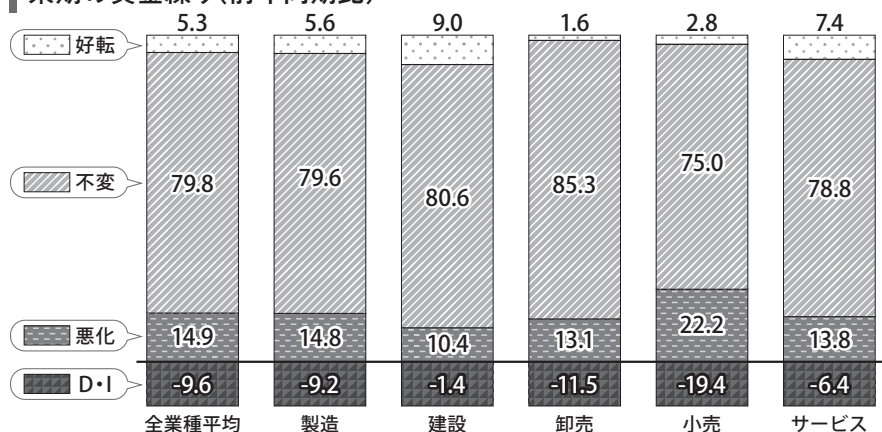
来期前年同期比

全業種平均でD・I値▲9.6[今期の資金繰り(前年同期比▲13.6)より4.0ポイントマイナス幅を縮小する見通し]

業種別D・I値

全業種	今回▲13.6→▲ 9.6
製造	今回▲16.7→▲ 9.2
建設	今回▲ 7.2→▲ 1.4
卸売	今回▲ 4.9→▲11.5
小売	今回▲23.6→▲19.4
サービス	今回▲15.6→▲ 6.4

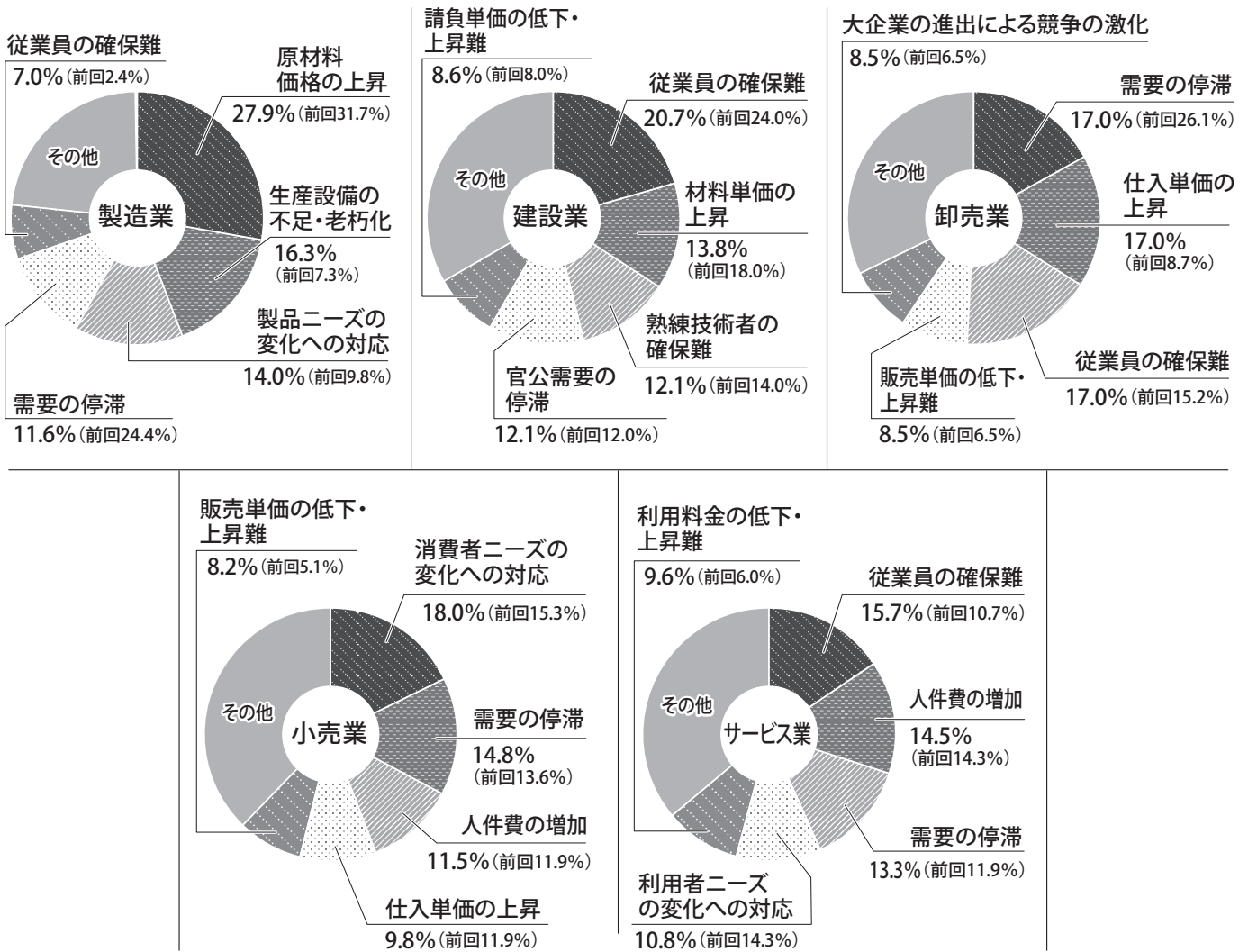
来期の資金繰り(前年同期比)





## 5. 経営上の問題点

### 今期の経営上の問題点(上位に挙げられた項目)



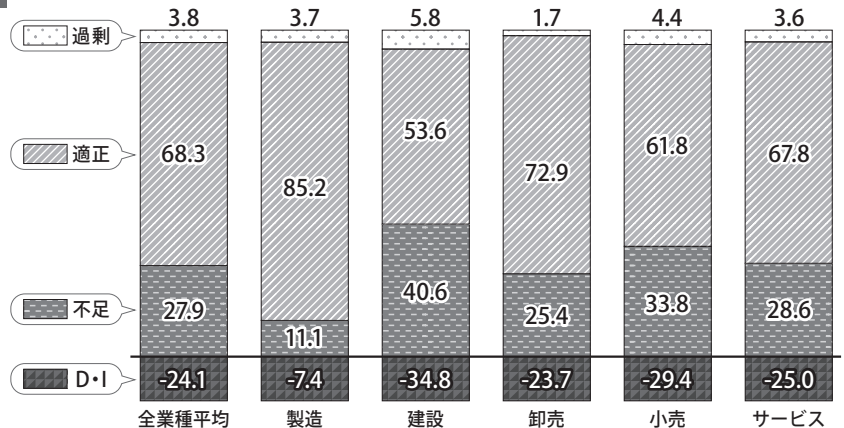
## 6. 従業員の動向

全業種平均でD・I値▲24.1[前回調査時(2018年10~12月期▲28.4)]と、前回調査に比べ、マイナス幅を縮小したものの、3割近い企業で不足と回答した。

### 業種別D・I値

全業種	前回▲28.4→▲24.1	(適正68.3%)
製造	前回▲20.0→▲7.4	(適正85.2%)
建設	前回▲37.7→▲34.8	(適正53.6%)
卸売	前回▲28.6→▲23.7	(適正72.9%)
小売	前回▲24.7→▲29.4	(適正61.8%)
サービス	前回▲30.9→▲25.0	(適正67.8%)

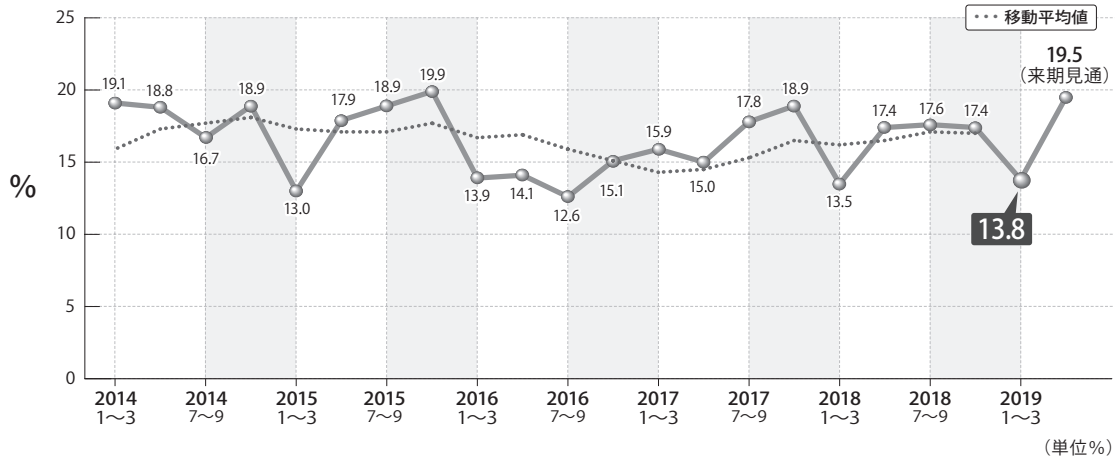
### 今期の従業員の動向



## 7. 新規設備投資

### 今期の新規設備投資

新規設備投資  
実施の動向  
(全業種平均%)



	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施した	7.4	22.9	5.1	11.3	22.2	13.8
土地	0.0	0.0	0.0	25.0	13.6	7.7
工場建物、建物、店舗	0.0	0.0	0.0	37.5	27.3	13.0
清算・販売・サービス設備、建設機械	75.0	12.5	0.0	37.5	22.7	29.5
車輛運搬具	0.0	62.5	33.3	25.0	31.8	30.5
倉庫・駐車場等の附帯施設	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	1.8
OA機器	50.0	43.8	66.7	37.5	18.2	43.2
厚生施設	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.9
その他	0.0	18.8	0.0	12.5	13.6	9.0
実施していない	92.6	77.1	94.9	88.7	77.8	86.2

新たに設備投資を実施した企業は平均で**13.8%**〔前回調査時(2018年10~12月期17.4%)〕。業種別では製造〔前回22.2%→7.4%〕、建設〔前回20.9%→22.9%〕、卸売〔前回11.9%→5.1%〕、小売〔前回13.2%→11.3%〕、サービス〔前回18.8%→22.2%〕と、製造業・卸売業・小売業では実施したと回答する企業が減少した。

### 来期の新規設備投資

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施する	24.5	25.7	8.5	18.3	20.4	19.5
土地	0.0	5.6	20.0	23.1	5.0	10.7
工場建物、建物、店舗	23.1	16.7	40.0	30.8	15.0	25.1
清算・販売・サービス設備、建設機械	61.5	16.7	20.0	38.5	35.0	34.3
車輛運搬具	0.0	44.4	20.0	38.5	30.0	26.6
倉庫・駐車場等の附帯施設	15.4	16.7	20.0	0.0	25.0	15.4
OA機器	38.5	27.8	20.0	7.7	35.0	25.8
厚生施設	0.0	5.6	0.0	0.0	10.0	3.1
その他	7.7	16.7	0.0	7.7	25.0	11.4
実施しない	75.5	74.3	91.5	81.7	79.6	80.5

来期、新たに設備投資を予定している企業は全業種平均で**19.5%**となっており、今期13.8%と比べ設備投資を実施する企業が増加する見通し。業種別では、製造〔今期7.4%→24.5%〕、建設〔今期22.9%→25.7%〕、卸売〔今期5.1%→8.5%〕、小売〔今期11.3%→18.3%〕、サービス〔今期22.2%→20.4%〕となっている。

## Ⅱ. 調査要領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 2019年4月  
(2) 調査対象期間 2019年1～3月期実績及び2019年4～6月期の見通し

### 2. 調査対象

#### (1) 中小企業景況調査

「製造業・建設業」については、資本金3億円以下、又は従業員300人以下の企業、「卸売業」については、資本金1億円以下、又は従業員100人以下の企業、「小売業」については、資本金5千万円以下、又は従業員50人以下の企業、「サービス業」については、資本金5千万円以下、又は従業員100人以下の企業を対象とした。

#### (2) 業界動向調査

道内各地商工会議所が地域の中小企業者との相談等により情報収集した特徴的事例。また各業界組合・企業に対し独自に聞き取り調査を実施し、生の声を収集した。

### 3. 調査地域及び調査方法

- 全道商工会議所地域の中小企業に対しアンケート調査を実施(中小企業景況調査)  
全道商工会議所を通じて地域の業界組合等へヒアリング調査を実施(業界動向調査)

### 4. 業種別・規模別回答状況(社数)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
小規模	40	56	42	63	71	272
中規模	15	14	20	10	28	87
合計	55	70	62	73	99	359
構成比(%)	15.3	19.5	17.3	20.3	27.6	100.0

#### 業界動向調査

- ・業界動向ヒアリング先 製造業26社、建設業27社、卸売業27社、  
小売業23社、サービス業29社、合計132社

#### D・Iとは…

本調査結果中の「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、各調査項目についての増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差引いた値(景気動向指数)を示す。

ホームページ：URL <http://www.hokkaido.cci.or.jp/keiki/>

